

## 第3回 九重町立小学校のあり方検討委員会 会議録

日時	令和7年12月23日(火) 18:30~20:00
場所	九重町役場 3階 301会議室
出席者	委員14名、教育長、事務局6名
欠席者	委員5名

内容
1 開会
2 委員長あいさつ
3 経過報告
<議事>
4 内容検討 (前回会議の振り返り)
■「校区の特色を生かした地域協働の取り組み」(案)の確認 前回の会議で挙げられた地域の特色や資源等の一覧表を元に、追加意見等がないか委員に確認。
(今回会議の検討事項)
■事務局から提示している以下2つの検討依頼事項を踏まえ、より具体的な内容の検討。
1) 魅力ある学校づくりについて
2) 少人数教育及び地域密着型教育の充実について
<u>検討内容については、委員長より資料をもとに説明</u>
1. 教育環境について(前提)
2. 基本計画の「理念」を生かした「新たな」計画づくり
3. 各地域での学校とのかかわりや関係づくり
・子どもと学校間 関係
・子どもと地域間 関係
・地域間 関係
5 その他
■「校区の特色を生かした地域協働の取り組み」(案)の確認依頼
■次回委員会について
6 閉会

## 意見

事務局：ここのえ学園の基本理念のもとに、6校を維持していくため、集合学習・つながり学習・合同社会見学・修学旅行・指導事項をそろえる等、様々な取り組みをしてきた。本来のここのえ学園のコンセプトは学校・家庭・地域・社会教育、すべての町民を取り込んで子どもの教育につなげていくということ。しかし、子どもたちの意識・教員の意識として住民全体で子どもたちを育てるここのえ学園の子どもたちであるという意識はないように感じる。どうすれば子どもたちが「自分はここのえ学園」の一員なのだ、ということ意識させることができるのか考えてほしい。

意見①：大人が子どもの前で生き生きとした姿を見せることが必要。子どもたちの夢の職業の方をゲストティーチャーとして呼んで話をしてもらい取り組みがある。地元で生き生きと働いて生活をしている方が、その楽しさを子どもの前で話をしてもらいこと。それは将来子どもたちが地元で暮らしたくなるきっかけになる。その他にもその土地で地域の人と色々な活動を共有することで、関わりが深まっていく。自分の地域を考えるきっかけになる。それを元に、中学校では九重町全体について考えていけるといい。

意見②：意見①を聞いて思い出したが、クラスの保護者で保育士をされている方がいた。その方にゲストティーチャーとして来てもらい話をしてもらった。いつもは保護者として関わっている大人が、仕事について語っている姿を見るのは子どもにもいいと思った。今後子どもの人数が減っていくと言われている学校もある。例えばオンライン学習を使って、他校の同学年の子どもたちと繋がれる、成果を見せ合える機会を増やせるといいのではないか。そうすることによって、学習の幅が広がっていくのではないかと思う。

意見③：この会議ではじめてここのえ学園という言葉を知った。皆さんが言われているような「ここのえ学園の子ども」ということを私も知らなかったし、もちろん子どもも知らない。子どもたちがここのえ学園の中で育っているということを知ること自分たちは大きな組織の中にいる、一つの学園の中にいるという意識ができれば子どもの感じ方も変わるのでは。

意見④：野矢地区の山村留学制度は地域とのつながりを活かした活動が出来ていると思う。ただ、このつながりを続けていく（引き継いでいく）のは難しい部分があると思う。他の小学校との関わりは修学旅行などを通して他市町村よりはできていると感じるが、もっと下の学年から始められると、よりつながりを感じられるのではないか。こども園は一緒に、小学校で離れて中学校でまた一緒にではなく、先生方は大変だと思うが、全体でもっとつながりを考えていければ子どもたちの力になるのでは。

意見⑤：子どもは小学校に上がるまえに、こども園の友達と離れることに不安を感じていた。つながり学習を全学年に広げていくことが出来ればいいのでは。また、保護者側も小学校で離れることが分かっているこども園のママ友も自然と小学校別になつたりするような傾向もある。つながることができるといいのではないか？継続した子ども同士のつながりがあるといい。保護者同士のつながりが少なくて私自身も不安だった。継続したこ

このえ学園のつながりがあるとよい。

意見⑥：育成協議会や放課後児童クラブの活動に携わっている。育成協議会の活動では、色々なものを作ったり料理をしたりしている。基本的には地域とのつながりづくり。私自身も地域の一員として色々な活動の中で一緒に過ごしている。長年の活動の中で感じたことは、当初は全く素朴な質問さえできなかつた子が、1～2か月たつと色々な質問をしてくれるようになってくる。子どもたちとの関わりが深まっていくように感じられる。そういった関わりが持てるのが心地いい。活動の中で子どもたちが主体的にできることを計画することで、子どもたちも生き生きとしてくる

意見⑦：前から思っていたが、集合学習やつながり学習を各小学校それぞれで取り組んでいるがそれらをもう少し踏み込んで、各学校で取り組んでいる地域についての活動を、他校の子も同じように取り組めるといいのではないか。子どもが学んだことを別の子どもたちに子ども自身で指導するようにすれば、教える側も教えられる側もいい経験になると思う。横のつながりを持たせることが大事。また、宮古島や隠岐の島で取り組んでいる留学を九重町でもできるといい。各地区に特徴があるので、行ってみたい地区に行けるといい。外からみて九重町はいいなと思えるような、色々な特色を生かしていければいいと思う

意見⑧：もう少しバスを気軽に借りられる環境になるといい。スキー事業で飯田地区に行くことがあるが、もっと気軽に行けるようにできるといい。ぶどう狩りや田植えなどを1年生なら町内の1年生全員ですとか横のつながりでできるといいのでは。年に1回全体でできることがあると良い。淮園小学校は2年後に150周年を迎えるので、地域を盛り上げていきたい。

意見⑨：先日、「夢のホンモノに会う」取組で野上地区の美容師の方を呼んで子どもたちに話をしてもらった。中学校でも職業講話をしているとのことで、最後に「この続きは中学校で話します」と言っていた。子どもたちにとって、また話を聞けるのが楽しみになるのではないか。そういうつながり方もあるんだと思った。飯田小学校は子どもたちがキッズガイドをしている。タデ原湿原のガイドを子どもたちが観光客の方に向けてしている。そういった学校ごとの活動があればそれを活かしてほしい。

意見⑩：児童クラブに勤めているが、つながり学習についてよく聞く。子どもたちが知らない子どもの名前を言っているのが、学習を続けていくと友達になっていくのだと感じる。今の小学生は時間がない。6時間授業のあと、宿題をして6時に迎えが来る。核家族の家庭であれば、帰宅後に夕食の準備などをしていてと食事が7時半になる子もいる。そうすると、就寝時刻がどんどん下がっていく。また月～土まで毎日来る子もいる。習い事をしていると休日までつぶれてしまう。そうすると、地域の行事などにはとても参加できない。子どもたちの置かれた環境はどんどん変わってきていて、保護者の方も大変そうだと感じる。運動会も午前中開催になっている。1日開催できると、大人も楽しめるし、大人の頑張っている姿を子どもにも見せることができる。大人が仕事で頑張っている姿を見せられる機会はあまりない。行事ごとに地域が関わっていけるといい。土曜

日・日曜日の時間の使い方について、地域で考えられるといい。子どもたちを地域の活動にどんどん出して行って地域との関わりを増やしていけるといい。

意見⑪：PTA 会長をやっている。ほぼ全校児童とその親まで含めて顔と名前、所在がわかる。それは小規模だから実現できること。子どもも同様に認識してくれている。子どもたちから話しかけてくれることも多い。そういった利点を生かして保護者や地域が運営する学習塾ができないか。そうすれば学校と連携が取りやすい。保護者が講師であれば先生と連携もしやすい。現在は、児童クラブで似たようなことをしてくれている。それで学力が伸びた子もいる。より学習・学力に特化したようなことができるといい。

意見⑫：ここのえ学園を周知するために、ここのえ学園のテーマソングを作るのはどうか。取組で子どもたちが集まったときには、その歌を歌う。T シャツを作って、集まる時には着る。今いくつかの学校では T シャツを作っているが、全部の学校ではないので、せっかくの集まりに着ることができない。お揃いの T シャツであればみんな着ることができる。できれば町費でお願いしたい。東飯田小学校では、保護者同士でレクをしている。社会教育でもあるので、全体で出来るとなるとお良いのでは。

意見⑬：令和元年の九重町小学校再編検討委員会にも携わってきた。小学校の6校維持という方向が決まった時、正直個人的には「ここのえ学園」というと九重町で一つの小中一貫校というイメージがあった。しかし、地域に学校があるとおじいちゃんおばあちゃんたちも元気になる。地区に小学校があるというのは重要で、地区に子どもの姿がある、子どもの声が聞こえるというのが大切。スクールバスで通うだけだと地域との関わりが薄れる。こども園から中学校まで6年あるが、集合学習等で子どもたちは関わりを持てるが、保護者同士はなかなか交流ができない。同じ学年の子どもプラス保護者が集まってレクレーション等ができないか。ゲストティーチャーを招いて話を聞くのであれば、同じ学年の子どもと保護者を全員呼んで話を聞くのはどうか。小学校低学年から、どんな仕事があるのか考えさせる機会を作るのは大切。学校での職業講話をもとに家庭でも話ができるといい。

#### 確認依頼事項

##### ■「校区の特色を生かした地域協働の取り組み」(案)の確認依頼

現時点での地区ごとの魅力一覧は委員の方だけの意見のみとなるため、様々なところから意見をいただくよう依頼。

学校には教育委員会から依頼を行う。

可能であれば次回の会議までに学校運営会議等で議題にすること。

次回会議までに学校運営会議の開催がないようであれば、

個別に地域の他の方にも聞いてもらうよう依頼。

#### 次回開催予定日

次回開催は2月の予定のため、事務局で日程調整し、後日お知らせする。2月中旬以降を予定。